

# 第1回 横須賀市都市計画マスタープラン見直し検討会議 議事録

日 時：平成26年11月10日(金)15:00～

場 所：消防局庁舎4階災害対策本部室

参加委員：14人（内代理出席2人）

事務局：都市計画課、株式会社 集計画研究所

## 1. 開会

## 2. 都市部長挨拶、事務局紹介

## 3. 委員紹介

## 4. 都市計画マスタープラン見直し検討会議の運営について

### (1) 委員長の選出、委員長挨拶

### (2) 委員長職務代理者の指名

## 5. 議事（都市計画マスタープランの改定について）

### (1) 改定の目的と進め方について

#### ●事務局からの説明後、議事。

委員長 短期間に検討することになるが、途中で会議の回数が足りないとか、特別の工夫が必要だという場合、それを考える余地はあるのか。

事務局 予算的な問題もあるが、できるだけ柔軟に対応したい。

### (2) 都市づくりの課題について

#### ●事務局からの説明後、議事。

委員 斜面地等、災害危険度が相対的に高い地区における立地の問題はあるのか。

事務局 横須賀は海沿いに面した平地のすぐ後背部に丘陵が広がっており、概ねどの地点からも、そう時間をかけることなく高台への避難が可能となっている。そのため、危険度による土地利用の規制等を行っていない。

委員長 前回改定した時は東日本大震災の直前であり、防災の話はあまり書かれていないようだが、今回の見直しでは、4番の安全の所でしっかりと受け止めたいということ

になっている。

委員 結婚適齢期の人が未婚のままで、少子化に拍車がかかっていると思う。データを取って、それを踏まえて結婚へ誘導する対策を講じる必要があるのではないか。

事務局 残念ながら、そのようなデータは手元にない。子育てをしやすい環境づくりにより、結婚したいという気持ちになってもらうことは重要だと思う。

委員 私の周りでも、ずっと家にいて結婚しない人が多い。そういう状態になっているのは何故なのか分析するためのデータを整理して欲しい。

事務局 どういうデータが整えられるか検討する。

委員 結婚を機に横須賀に住むようになったが、周りのママ友は横須賀で生まれ育って戻ってきた人や、横須賀が好きでずっと住み続けている人が多い。それは住み易いと思っているからだと思う。私も横須賀に愛着があり、住みやすいし、子育てがし易いと感じている。

委員 横須賀が好きなのに、子育て世代が何故減っているのか。大学への進学ではちょっと遠くても、家から通うという場合が多い。その後の就職では、横須賀には住んでいて職場は都内ということになり、当初は横須賀から通勤しているが、時間を経て20代後半から30代の子育て世代、仕事を任される年代になると、仕事量が増えてどうしても通いきれなくなり、横須賀を離れていくように感じる。一方、周りの幼稚園、小学校未満の子育て中の人々の半分位が横浜や東京からの転入者である。おそらく、通勤は大変だが、子供を育てる庭付きの家が横須賀なら手に入るということで家を買ったのだと思う。

委員 横須賀の特徴として、基地の問題がある。語られないことが多いが、海軍カレーや軍港巡りなど、観光面での基地利用は有効だと理解されていると思う。そういうことを、どのようなニュアンスで表現していくのか。

事務局 基地のあり方として、良い悪いと都市マスで言うつもりはない。ただ現実には土地利用として基地があり、それはそれで存在することを前提として考える方が都市マスとしては現実的だと思う。

委員 他のまちづくりの成功事例では、マイナスイメージだったものをプラスイメージに転換していく取組が良くある。もし基地がマイナスイメージだとしたら、市内の土地利用の一定割合を占めている特徴的なものなので、どう使っていくかと考えたいと思う。観光面に加えて定住促進に基地が使えないか考えている。

委員 県立福祉大学では、学生とまちづくりへの参加やお手伝いができないかと模索している。例えば、谷戸において学生ボランティアとしての取組を始めており、もっと

そういうところから参画できればと考えている。

事務局 県立福祉大学の学生が、汐入のモデル地区で住宅2軒に5名住み、生活支援や町内会の活動などを行っている。今後エリアを広げたり、他大学でも取り組んでいきたいと考えている。

委員 近年人口は減少しているが、地価や家賃を比べると横須賀は安く、結果的にはこちらへ戻って子育てをする人が増えて来ると思う。長井で民泊（民宿ではなく一般の家庭に泊まる）をやっている。横須賀や長井の何がいいのか、住んでいる我々には良く分からないが評判は良い。地域の良さは外から見ないと分からないのかもしれない。防災面では、津波の想定ラインがだんだん上がって来ており、そのうち海岸線に家は建たなくなるのではという感じがする。国、県、市は地図を作成し、何かあったら逃げろと言う。それはそれで良いが、少し考えて施策に織り込んでもらいたい。防犯面では、横須賀の場合、防犯とか青少年の犯罪等は日本全国から見れば低い方ではないかと思う。総じて横須賀市内は住み易く、過ごし易い、危険の少ない所だと感じている。

委員 防災でいうと、避難する地域や高層ビルの住民や所有者が受け入れてくれるかという問題がある。住民やビル所有者との契約、ルールを決めようとしているが、ずっとビルの廊下などに住み込まれてしまうと困るというような意見も多く、中々理解が得られない状況にある。その辺りで、指導というか強制力を発揮できる何かが必要だと思う。

委員 長井のどこがいいか分からないという点で、部外者から発言したい。長井は交通の便がいいとは言えないが、そのマイナス部分が幸いして良い所になっているのだと思う。長井は便利じゃないが故にその特異性、個性が残っている。便利な程良いという考えもあるが、便利じゃない故に横須賀らしさが残っているということも考えながら検討して欲しい。

委員 半年位前に北海道の海洋科学の学校から2名が、長井の組合の現場職員として来た。場所は学生たちがインターネットを見て決めたと聞いた。長井は都会でもなく田舎でもない、中途半端な場所で、人もまちものんびりしているところがいいのかも知れない。

### (3) 都市づくりの目標について

#### ●事務局からの説明後、議事。

委員 資料7都市づくりの目標の、歩いて「アメリカ」を感じることでできる街並みの整備は、具体的にどんなまちをイメージしているのか教えて欲しい。

事務局 横須賀にはベースがあって、外国人、特にアメリカ人が街中を普通に歩いており、本町ではアメリカを意識したモール化というようなことをやっている。市全体ではなく、中心市街地を中心に、商業空間や歩いて楽しめるような空間の中で、アメリカ的なイメージが感じられるようになれば良いと考えている。

委員 ダウンタウンにアメリカがあると、米軍基地のアメリカの方が横須賀市街に魅力を感じなくなってしまうのではないかと危惧する。彼らは米軍基地には無いものに、魅力を感じているようだ。横須賀市が経済的にうまく回っていくには、米軍基地の中にいる人に外に出て来てもらって、お金を落としてもらっても、大切だと思う。

委員 現都市マスの課題や計画では低炭素が位置付けられているが、資料7の今後の都市づくりの目標（案）の中では取り上げられていない。効率的にエネルギーを使っていく、再生可能エネルギーなどを導入していくという取り組みは変わらずあると思う。将来推計人口で、都市マスを実行していくことによって人口減少にブレーキを掛けて行くということだが、施策によりどのように人口構造を変えていこうとしているのか教えてもらいたい。周辺市街地と郊外市街地がどういう形になるのか分からない部分があるが、住宅と住宅の間に隙間が出て来るようなイメージだとすると、そこを埋めていくのが、みどりということになるのか。

事務局 再生エネルギーについての考え方は、計画に組み込んでいきたい。人口に関連して、定住促進については、これまでと同じように進めて行きたいと思っている。周辺市街地、郊外市街地は急激に変わることはないが、時間を経る中で多くの人が住む所、殆ど住まない所の色分けが出て来ると思う。そういった状況で土地利用を考えれば、みどりは大きな要素になって来る。

委員 近年の人口減は、外に出て行く数が増えているのではなく、外から入って来る数が非常に少なくなっているため社会減少が進んでいるという傾向にある。横須賀市の定住促進を担っている部署では、30～40代の子育て世代を、通勤圏内、例えば横浜から横須賀の住宅の安さを売りに持って来ようとしているが、その世代だけではなく、色々な世代に横須賀の良さ、住み易さを提供していく必要があると思う。

委員 公共交通については、駅がJRに4、京浜急行に17あり、バスの路線も県道と国道には殆ど通っており、撤退しているという路線は一つもないが、バス路線の定時運行ができないという問題がある。コンパクトシティをどのように築き上げていくのか。駅周辺に都市機能を集約すると言っても、どこの商店街もシャッターが下りており、買物に行こうとしてもパーマ屋と居酒屋位しか開いていない状態になっている。地元商店街対策を重点的に取り組んでもらいたい。人口推計では、人口は減少しても、65歳以上の人は11万人と変わっていない。目標にはシニア世代がいきいきと暮らすまちをつくとあるが、就労可能な人達、出産可能な人達にどれだけ住んでもらえるのかが一番のキーになると思うので、目標を総花的にするのではな

く、ある程度絞り込んだ形にするのがいいと思う。

委員 推計人口 33 万 8 千人とあるが、これはあくまで推計であり、目標をどれ位にするかということが大切だと思う。少子化、人口減少は全国的な傾向で、横須賀市だけ増えるということはおそらく考えられないことであり、どの位の規模が一番適正なのか、住み易いまちとはどのくらいの規模で、どんな構造ならいいのかということも検討すべきだと思う。

委員 人口については、国会でも色々討議されて、50 年後には 1 億、あるいはそれを切ってしまうのではと言っている。横須賀も 20 年後には 34 万人の市になってしまうと言うが、特別大変なことだとは思わないで、34 万人の市を創るにはどうすべきか、という前向きな姿勢が必要だと思う。横須賀は、他の地区から来てもらえるおもしろい国際交流ができるまちであり、神奈川県には鎌倉に負けない横須賀という観光都市があるぞと、もっと PR していくべきだと思う。

委員 子育てに関しては、未就学児の母親たちは安心が大事な視点で、小学校に入った後は教育がとても大きな視点になってくる。それを考えると、子育てに関して教育という点で取り上げるべきだと思う。例えば学校の誘致をするなど、見える形で特色のあるものにするといったことで、他の都市との競争力が付くのではないかなと思う。また、横浜から移転してきた学校や認知度の低い横須賀市の博物館など、今ある資源の PR をもっと行い、上手く活用していくことも良いと思う。

委員 都市マスの軸は土地利用と交通だと思う。2035 年の人口は多分 1975 年頃と同じ位だと思うが、土地利用は人口減少に合わせて同じ状態に戻り、同じパターンで縮むかということ、絶対そうではない。新しく作ったばかりの住宅地や駅前のマンション建設地は局所的に人口が増加している。一方では人口がどんどん減っている場所があるということは認めざるを得ない事実で、それを前提に色々考えていく必要がある。人口減少も悪い側面ばかり着目されているが、一人当たりのスペースが広くなるという意味ではプラスなので、それを活かした土地利用ができればいいと思う。先ほど、バスはネットワークは良いが定時制が確保されないという話があったが、それは自動車が多いということなので、自動車から公共交通への転換を図ったり、土地利用と交通の関係をきちんと整理することが重要だと思う。

委員 教育問題で先程発言があったが、市内の学生の学力を伸ばさなければという課題があると思う。

委員 横須賀は何かというと軍港、軍港と言っているが、余り頼り過ぎるのもどうかという気がする。それより、とりあえずできる事から先にやってみることが良いのではないかなと思う。横須賀さいか屋は、陸橋を渡らなければ向こうに行けないので、横断歩道をつくることも一つの方向性として考えて欲しい。

## 6. その他

- 事務局より、横須賀市マスタープラン検討会議意見等提出シートについての説明と依頼及び次回スケジュールについての説明を行った。

## 7. 閉会